

2017年12月25日

## 事業所長による保安に関する意見交換会

安全工学会  
石油化学工業協会

経営層の保安への強化として、現場に最も近い経営層である製油所長・事業所長の保安に関する第5回意見交換会を、安全工学会と共催で千葉県のココンビナート地域にて下記の通り行った。

### 記

1. 日時 2017年12月5日（火）14:00-17:00

2. 場所 住友化学(株)千葉工場 特別2号会議室

3. 目的

千葉県のコンビナート地域において、保安の向上に日々努力している石油精製・化学系企業のトップにお集まりいただき、企業・業種の壁を越えて保安に関する意見交換を図ることで相互のレベルアップを図る。

4. 参加者

(1) 企業 出光興産(株) 前澤千葉事業所長  
コスモ石油(株) 小笠原千葉製油所長  
住友化学(株) 三好千葉工場長  
丸善石油化学(株) 圓井千葉工場長  
三井化学(株) 近藤市原工場長

(2) 安全工学会 三宅淳巳（横浜国立大学教授）、湯本公庸（事務局）

(3) 石油化学工業協会 保安衛生委員長 成田睦夫（旭化成）、専務理事 志村勝也  
岩間啓一（事務局）

住友化学(株)関係者（伊藤氏、村田氏、乗竹氏）

4. 内容

出席者の自己紹介の後、成田委員長の司会により各製油所長、事業所長からトップコミットメント、技術伝承・教育、新たな技術への取り組みについての意見交換から始まり、働き方改革、特に定期修理の問題などに進んだ。

(1) トップのコミットメント

生の声で現場と直接コミュニケーションを図り、所長としての考え方の浸透に努力

①従業員との対話・懇談の重視

・工場トップに加えて、社長・専務・常務の定期的な現場巡視

②「安全をすべてに優先させる」の明確な発信

・すべての従業員が一人一人主体的に能動的に取り組むために「優先する」から「優先させる」へ

## (2) 工場運営の施策

### ①安全活動のあり方

- ・ トップ型とボトム型アプローチを組み合わせた活動
- ・ 活動への励ましなどのモチベーション向上、動機付けへの取り組み
- ・ 作業面だけではなく設備面の見直し、整備

### ②業務量の適正化

- ・ 事故があると、再発防止に向けた取組みが膨大な作業となるが、ベースが出来上がるまで、期間を定めてメリハリをつけることが大事
- ・ あまりに作業量が増えるとやらされ感が出て逆効果
- ・ 安全活動は増加方向、活動の廃止は上位者が指示する必要がある

## (3) 技術伝承・教育

### ①運転員教育

- ・ 各層ごとの教育。運転員は5年で1人前を目標、監督者は意識教育
- ・ 設備に強い運転員をめざし設備部門が運転部門を教育。機器メーカーでの研修でレベルアップ

### ②課長教育

- ・ 工場長として課長教育に注力。昼だけでなく夜の勉強会などに参加
- ・ 課長職の魅力を増し、長期に課長を務めてもらうことができる施策が必要

### ③保安・安全部門の人材

- ・ 製造の経験が必須。プロセス、科学的知識など高度な資質が要求され、人材育成が大きな課題

## (4) 新たな技術への取り組み

- ・ プロセス異常の予兆などプロセス系の新技術は限界、有効性を見極めている段階。技術が適しているものと人が得意なものの二通りがありそう
- ・ 保全、設備管理に関する新技術についても試している段階
- ・ 電子機器の活用には防爆に関する規制緩和が必要だが、単なる緩和ではなく本質的に考える方がよさそう
- ・ 機器メーカーにテストの場を提供し、一緒に開発することも有効

## (5) 働き方改革への取り組み；定期修理問題

- ・ 定期修理は、石油精製～エチレン～誘導品とつながっているプラントが一斉に行うために要員不足。分散化・平準化が必要
- ・ 現時点では早朝からの勤務、OBの活用、フレックス制度の導入、指定休日の振替などしかない
- ・ 運転中工事を増やし、停止時工事を減らすことも行ったが、安全管理が大変
- ・ 工事協力会社の質も低下しており、教育が必要。地区全体で共通の工事協力会社を育てることも必要

以上